

蒙古族の宗教的風俗習慣

附蒙古の巫人^{シヤマン}

今茲に此稿を公にするに先立ちて、聊か斷つて置かねばならぬことがある、元來自分は哲學と云ふものに對しては全然門外漢である、東洋哲學と云ふ様な堂々たる斯學の専門雜誌に、物をかく様な造詣もなければ資格もない、にもかゝらず筆を執るに至つたのは先輩境野黄洋氏の依囑辭す可らざるものがあつたからである、こんなわけで全篇すこしも哲學上の見解を加へた點はない、或はこんなことは哲學といふものに全然影響を與へるところがないかも知れない、しかし世界の何れの民族でも、各々特種の風俗を有し、習慣を有し、人性素質を異にする以上は廣く之等の間に亘りて、それこれのことを研究するのは頗る趣味あることであると思ふ、また重要なことと思ふ、歴史の上から之を見れば風俗史である、文化史の一部である、哲學の見地よりすれば即ち民族心理の研究である、敢て茲に民族心理の研究を發表するといふのではない、歴史上の事實として今日に傳はるものの中、注意すべきものと思ふふし／＼をぬき出だして、諸君の參考に供するまである、幸ひに些の注意でも惹くことが出来れば仕合である、

茲に謂ふ蒙古族とは、今日人類學上の區別に従つた名稱ではない、また内外最近の學說によれる蒙古族即ち支那古代から喧しい匈奴等の民族を指すのでもない、從來の歴史の上に最も普通に知られて居る蒙古族、即ち蓋世の英傑成吉思汗^{チンギスカン}を出だした未開の民族を云ふのである、此部族がどういふ工合に史上に現はれ、發展したかは茲に云ふ